

ぎる。永遠に秘密が解除されない恐れがある」と反発し、例外の範囲を絞り込むよう要求した。

維新はさらに特定秘密の範囲を国家安全保障に限定する▽秘密を指定できる行政機関を内閣官房、外務

省、防衛省の三つに絞る一との修正を求めるが、与党は法案の根幹にかかわるとして応じていない。

悪質運転厳罰法が成立

病気や無免許の事故対象

病気の影響や無免許運転などによる死傷事故の厳罰化を図る「自動車運転死傷

行為処罰法案」が20日、参院本会議で可決・成立した。法務省は病気の対象に、発作を伴うてんかん▽

車運転手がてんかんの薬を飲まずに発作を起こし、児童6人をはねて死亡させた事故などを機に作られた。

遺族らは検察側に、量刑の上限が懲役20年の危険運転致死罪の適用を求めた。規定も盛り込まれた。

(西山貴章)

（法務省が想定する対象の病名）
・発作を伴うてんかん
・統合失調症
・再発性の失神
・無自覚性の低血糖症
・躁鬱（そううつ）病
・重度の眠気を催す睡眠障害

▼14面II 遺族と患者、賛否
法案は、栃木県鹿沼市で

2011年4月、クレーン

と規定されているため断念。上限が懲役7年の自動車運転過失致死罪での起訴にとどまり、厳罰化を求める声が高まっていた。

これを受けて今回の新法では、飲酒や病気、薬物摂取の影響で「正常な運転に支障が生じるおそれがある状態」で起こした事故にも、最高で懲役15年が科される」となった。

さらに飲酒運転の摘発を逃れようとする行為に上限で懲役12年を科す規定や、無免許運転で死傷事故を起こした場合に刑を重くする規定も盛り込まれた。

(西山貴章)

遺族「命を守れる」

患者「差別が心配」

悪質運転厳罰法に賛否

病気の影響などによる重大事故を厳罰化する「自動車運転死傷行為処罰法案」が20日、可決・成立した。

▼1面参考

栃木県鹿沼市の事故遺族も、国会の傍聴席で見守つた。9歳の長男を亡くした伊原高弘さん(42)は「涙が止まらなかつた。大事なのは、この法律でだれかを裁くことではない。事故を未然に防ぎ、大切な命を守る方向へと進んでいくことだ」と訴えた。

一方、法務省によると、

病名を特定して厳罰化する規定は先進国では例がなく、患者からは不安の声も聞かれる。茨城県に住むてんかん患者の女性(38)は、車の販売会社に勤めていた時、薬を服用していたのに、運転中の発作で人身事故を起こした。会社に病名を申告すると解雇された。

6年ほど前から医師の許可を得て運転を再開。新たな職を得て働いているが、「新法によって、患者への差別が強まるのではないか」と思つといわい」という。

公益財団法人・交通事故総合分析センターによると、昨年1年間の全交通事故約66万5千件のうち、病気の発作・急病による事故は279件。交通事故訴訟に詳しい高山俊吉弁護士は

「発作などによる事故はごく一部。だが新法によつて、解雇や差別への不安から、患者が病名を正直に言えない社会になるのではないか」と話す。

(佐藤英彬、西山貴章)